

心理支援と心理学教育

—教育GP「心理支援論」(基幹科目)の循環型教育実践を通して—

講演者：井上 孝代# (明治学院大学)

司会者：山崎 晃 (明治学院大学)

講演要旨

現代心理学は人間の科学的アプローチにおいて、心の健康に関わる応用分野も発展を遂げている。心理学の社会貢献に対する社会の期待も高まるなかで心理学を学びたいという学生も増加している。しかしながら、一方では、そういう社会的ニーズにマッチした科学的専門知識と技術をどう体系的に教育すべきかが真摯に問われている。このような心理学教育の質を保証すべきという機運を受けて、日本学術会議の心理学・教育学委員会に「心理学教育プログラム検討分科会」が設置され、検討結果が対外報告「学士課程における心理学教育の質的向上とキャリアパス確立にむけて」(2008年)にまとめられた。

報告書においては、現代心理学は我々の生活のあらゆる領域で生じる心の法則性と理論を解明することで人間生活の福祉の向上や改善に貢献しようとし、したがって、大学に於ける心理学教育は、科学的な現代心理学の専門基礎教育を身につけ、心理学の近接領域の専門知識をもって幅広い分野で活躍できる人材を育成することが使命であると論じている。また、そのための心理学教育の目標と学習成果の基準については、「専門性」と「教養性」という2つの側面からのアプローチが重視され、(1)「心理学教育が達成すべき専門的側面」では、①専門的基礎知識が説明できる、②研究法の理解と適用ができる、③批判的・創造的な論理思考を形成する、④心理学の実際応用と理解ができる、⑤心理学に関わる価値観を形成する、(2)「心理学教育により達成される教養的側面」では、⑥情報技術や情報処理のリテラシーを持つ、⑦効果的コミュニケーション技術を獲得する、⑧社会文化的、国際的意識を形成する、⑨心理学を通して個人的成長をとげる、⑩キャリア計画とキャリア開発の技能を習得する、といった目標と成果項目が挙げられている。

明治学院大学心理学部においても、上記の心理学教育のあり方への検討をすすめていたが、学部の教育理念「ここを探り、人を支える」とコミュニティの支援ニーズとを統合した新たな心理学教育をめざして、4年間にわたる基幹科目『心理支援論』の学びを通し、“心理支援力”を身につけた人材を育成することをカリキュラムの根幹に位置づけることとなった。心理支援力とは、支援を求めている人々に共感的に関わって問題解決を図ることの出来る力、つまり自己理解力、自己コントロール力、他者理解力、関係形成力、他者支援力などの総合的な力で、その習得には確かな心理学の基礎知識と体験的な学習の蓄積が必須であることをカリキュラムの形で示したことになる。いわば、心理学教育の専門的側面と教養的側面を合わせた目標として、“心理支援力の育成”を掲げたともいえる。これは、シャイン(2009)の「Helping」(支援学の入門書)にあるように、自分や相手の自律性を尊重しつつ、問題解決のプロセスを支えるための原理・原則の習得を目指すものである。その育成にあたっては、広く学内外の資源を活用した教育システムを創案した。「体験活動サポート室」の設置によるコミュニティ資源を活用する、大学講義の学びを学外での体験活動で実習・確認し、さらにその体験を基に大学内での学びにつなぐという循環型の教育システムである。それにより学年進行に対応した理論学習と体験学習を統合して、段階を踏みながら心理支援力を発達的に身につけていけるようにしたのである。

加えて学部生に対する大学院生による指導, および教員による大学院生への指導といった階層的スーパービジョン・システムも導入し、それらのプログラムをエンパワメント評価するという心理支援力育成のための包括的な教育プログラムにまとめ、2006年より学部全体で取り組みを開始した。この取り組みは、「心理支援論：心理学教育の新スタンダード～コミュニティ資源を活用した体験活動および循環型教育システムの導入と評価」として、文部科学省の大学改革推進等補助金「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」（2008年～2010年）に選定された。

以後、明治学院大学心理学部では、心理学教育の一つの試みとして、心理支援力を培い、社会の様々な問題解決に対応できる人材の育成に取り組んできたが、毎年、プログラムのエンパワメント評価を進めるなかで、学生のニーズや社会のニーズなども取り入れ、修正を加えていっている。わけても社会的自立（就職など）という大学生の最大の発達課題の達成という視点から、心理学の基礎的知識・技能の習得の強化やキャリアパスの確立に向けての方向性をより前面に打ち出しつつある。

当日は、「心理支援論」の実践事例をもとに、現代社会にあって心の理解という難しくも重要な課題をめぐって、今後の心理学教育はどうあるべきか、発達援助の視点から私見を述べさせていただきたい。

講演者：井上 孝代

（明治学院大学心理学部教授 副学長）

略 歴：九州大学文学部哲学科（心理学専攻）、同大学院文学研究科博士課程単位満期退学（心理学専攻）。

東京外国語大学留学生日本語教育センター教授を経て、1998年より明治学院大学教授、心理学部長を歴任。博士（教育心理学）。

専門領域：カウンセリング心理学、多文化間心理学、コミュニティ心理学。

マクロ・カウンセリングを提唱
「トランSEND研究会」初代会長



主 著：『あの人と和解する』集英新書、『留学生の異文化間心理学』（玉川大学出版部）
『コンフリクト解決のカウンセリングーマクロ・カウンセリングの立場からー』（風間書房）

編 著：『共感性を育てるカウンセリング』『コンフリクト転換のカウンセリング』『コミュニティ支援のカウンセリング』『つなぎ育てるカウンセリング』『エンパワメントのカウンセリング』（以上 マクロ・カウンセリング実践シリーズ1～5 川島書店）、『心理支援論』（風間書房）

監 訳：『スクールカウンセリングの新しいパラダイム』（風間書房）、『コミュニティ・カウンセリング』（ブレイン出版）他。